

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●朝日杯フューチュリティSはカヴァレリッツォが優勝

12月21日(日)に行われた朝日杯フューチュリティS(G I)ではカヴァレリッツォ(牡2歳/栗東・吉岡辰弥厩舎)が優勝、重賞初制覇をG Iの大舞台で飾りました。

●5名の騎手が節目の勝利(初勝利を含む)をマーク

12月20日(土)の5回中山5日・第11レース・ターコイズSではドロップオブライイトが1着となり、同馬に騎乗した松若風馬騎手(栗東・フリー)は、現役37人目となるJRA通算500勝(7699戦目)を達成しました。翌21日(日)の5回中山6日・第7レースではジッピーチューンが1着となり、同馬に騎乗した戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)が史上17人目・現役8人目となるJRA通算1700勝(1万1537戦目)を達成。さらに同日の5回中京6日・第12レース・尾張特別ではリチャードパローズが1着となり、同馬に騎乗した菅原明良騎手(美浦・フリー)が現役43人目となるJRA通算400勝(5100戦目)を達成しました。

12月20日(土)の5回阪神5日・第5レースではスピナーリートが1着となり、同馬に騎乗したフローレン・ジェルー騎手(フランス)はJRA初勝利(32戦目)をあげました。また同日の5回中京5日・第10レース・2025ヤングジョッキーズシリーズファイナルラウンド中京2戦ではトルーマンテソーロが1着となり、同馬に騎乗した塩津瑠菜騎手(兵庫・長南和宏厩舎)はJRA初勝利(2戦目)をあげました。地方競馬所属の女性騎手がJRAで勝利するのは史上初のこととなります。

●2025ヤングジョッキーズシリーズは佐藤翔馬騎手が優勝

JRAと地方競馬から各8名、計16名の若手騎手が腕を競う「2025ヤングジョッキーズシリーズ」のファイナルラウンドが、12月18日(木)には園田競馬場で、20日(土)には中京競馬場で開催され、園田で2着、4着、中山で3着、2着、計67ポイントを獲得した佐藤翔馬騎手(美浦・フリー)が初優勝を果たしました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●アピーリングルックが名古屋大賞典(名古屋)で重賞初制覇

名古屋大賞典(JpnⅢ、12月24日、名古屋、2,000万円)は、2番手から3、4コーナー中間で先頭に立った5番人気のアピーリングルック(松山弘平騎手、牝4歳、父パイロ)が、内から迫る1番人気のカズタンジャーを半馬身差で退けてレコード勝ち。デルマソトガケが3着、逃げた2番人気のレヴォントゥレットは7着でした。

●兵庫ゴールドT(園田)でハッピーマンが昨年11月以来の重賞勝ち

兵庫ゴールドトロフィー(JpnⅢ、12月25日、園田、1,400万円)は、序盤4番手から向正面半ばで内を突いて先頭を奪った3番人気のハッピーマン(坂井瑠星騎手、牡3歳、父ダノンレジェンド)が、1番人気のマテンロウコマンドに半馬身差を付けて優勝。サンライズホークは7着、2番人気のサンライズフレイムは最下位の11着に敗れています。

●セイクリスティーナが寒菊賞(水沢)を圧勝【各地の2歳重賞】

寒菊賞(11月24日、水沢、1,600万円)は、2番手から3コーナー過ぎに逃げ馬を捉えた単勝1.1倍で圧倒的人気のセイクリスティーナ(牝、父タリスマニック)が7馬身差で圧勝し、4度目の重賞制覇。金沢ヤングチャンピオン(11月24日、金沢、1,700万円)は、逃げたエムティジーク(牡、父ダノンプレミアム)が後続を6馬身引き離し、単勝1.4倍の支持に応えて重賞3連勝を達成しています。

●ミッキーファイトが登場、12月29日の東京大賞典(大井)

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2,000万円)は、帝王賞、JBCクラシックとJpn Iを連勝中のミッキーファイトが中心、以下ナチュラルライズ、ナルカミ、ホウオウルレット、アウトレンジ、キングズソード、グランプリッジの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●2025年の海外遠征回顧～フォーエバーヤングが歴史的快挙達成

今年も日本調教馬が海外で活躍。11月にはフォーエバーヤング(牡4歳、父リアルスティール、栗東・矢作芳人厩舎)がアメリカ・カリフォルニア州のデルマー競馬場で行われたG 1 BCクラシック(ダート2,000万円)で前年の覇者シエラレオーネを下して優勝し、日本調教馬、そして日本産馬としても初めてアメリカ最高峰のダートレース制覇を成し遂げました。フォーエバーヤングは2月にもサウジアラビアのキングアブドゥルアジーズ競馬場で行われた、世界最高賞金レースのG 1 サウジカップ(ダート1,800万円)でロマンチックウォリアーを下して優勝しています。そのほか、4月にUAEのメイダン競馬場で行われたドバイワールドC開催ではソウルラッシュ(牡7歳、父ルーラーシップ、栗東・池江泰寿厩舎)がロマンチックウォリアーを相手にG 1 ドバイターフ(芝1,800万円)で勝利を収め、ダノンデサイル(牡4歳、父エピファネイア、栗東・安田翔伍厩舎)はG 1 ドバイシーマクラシック(芝2,410万円)でのちにジャパンカップ(G I)を制すことになるカラダガンを下して優勝。また4月に香港のシャティン競馬場で開催されたG 1 クイーンエリザベスII世C(芝2,000万円)では、タスティエーラ(牡5歳、父サトノクラウン、美浦・堀宣行厩舎)が優勝。海外でのG 1 勝ちとは5つに上りました。